

様式1

令和5年度 学校評価表（最終）

学校教育目標	自立貢献 ～自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することのできる生徒の育成～
--------	---

a ミッション 「生徒や保護者、地域から信頼される学校をつくる。」 生徒や保護者が美木に来て良かった。行かせて良かった。また、教職員が美木中に勤務して良かったと思える学校にする。 ○知育・徳育・体育のバランスをとり、地域に根ざした教育活動の推進 ○学校教育の信頼性の確保と高度化の向上 ○SSRによる不登校等生徒への適に前した支援の充実及び不登校の未然防止	a ビジョン ・規範意識を身に付け、向上心を持ち、自ら学ぶ意欲的な生徒を育成する。 ・自他を大切にすることを生徒を育成する。 ・自己を認識し、将来の夢や目標を立て、その達成に向けて計画ができる生徒を育成する。	尾道市立美木中学校
---	--	-----------

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	12月 g 達成値	h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
				イ	ロ	ハ								
確かな学力	「主体的な学び」を促す教育活動の工夫を行う。  「書く」活動の充実を図り、思考力・表現力を育成する。	・教科・領域において、ICT機器を活用した授業づくりに取り組み、授業研究等での実践発表を通して授業力を高める。  ・教科・領域において、学習目標達成を見取る手立てとして、話す・書く等の表現をさせる場を設定し、表現力を育成する。	教職員 ICT アンケート「生徒が ICT を活用した授業を単元毎に1回以上設定している」に回答する教職員の割合  学校評価生徒アンケート「ICTを活用した授業は、わかりやすい」に肯定的に回答する生徒の割合	100%	56%	55%	55%	D	①【成果】研究授業後の分科会やその交流でICTの活用方法などを検討し、ICTをどのように活用することで効果的であるか、などを共有できた。 【課題】ICTの活用頻度や効果に差がある。また、教科や単元等によってICTをどのように活用していくか、研修を積み重ねていく必要がある。  ②【成果】ICTの活用について生徒は成果と捉えている。これを続けていきたい。 【課題】ICTの活用で、生徒の学力をしっかりと上げられるような活用を考えていきたい。  ③【成果】授業の中で、話す・書く等の表現をさせる場を設定することで、考えを表現することが出来ている。 【課題】考えを表現する場は増えたが、実際、生徒が積極的に自分の言葉を使い、発表しようとしていたり、深く考えて表現したりする生徒はまだ少ない。	○			ICTの達成度が伸びておりませんが、授業に活用するのに先生方の苦労は計り知れないと思います。  個人的には端末の不具合・操作に生徒が手間取り効率が悪いと思います。義務教育には必要ないのでは？	①引き続き、研究授業等を通して、積極的にICTを生徒が活用できるようにしていく。ICTの活用方法を考え、その効果を上げていく。  ②さらに肯定感を高めるために、生徒の学力に結びつくような効果的なICTの活用方法を考えていく。  ③深く考えることができるような、単元を貴く問いを設定するとともに、生徒自身が主体的に考え、表現できるように授業を組み立てていく。
			学校評価生徒アンケート「授業では、時間を意識してチャイムが鳴る2分前には授業準備をして着席をしている」に肯定的に回答する生徒の割合	85%	93%	92%	108%	A						
豊かな心の育成	自他を大切に生徒を育成する。  規範意識や礼儀など、豊かな心を育成する。	①チャイム前着席の呼びかけと、授業開始時に立腰・黙想を実施し、授業に臨む態度を養う。  ②自ら進んで気持ちのよいあいさつができるように指導する。また、生徒会を中心に、あいさつ運動を実施することで生徒が進んであいさつを行う習慣を養う。  ③生徒リーダーを中心として学校行事や地域行事への積極的な参加を行う中で、生徒の自己肯定感と自己有用感を高める。	学校評価生徒アンケート「授業では、時間を意識してチャイムが鳴る2分前には授業準備をして着席をしている」に肯定的に回答する生徒の割合	①85%	77%	74%	87%	B	①【成果】生徒会の2分前着席の取組などを通して、生徒の中で声かけができる生徒が増えている。 【課題】時間を覚えて行動することに課題がある生徒が顕在化しており、授業準備・見直しを促して行動することに課題がある。  ②【成果】生徒会のあいさつグラフィの取組を通して、自分から進んであいさつを行うことができる生徒が増えている。 【課題】取組中は非常に活発にあいさつをする生徒が多いが、継続することが難しい。  ③【成果】生徒会の取組やピア・サポートレーニングを通して、生徒が集団の中での自分の役割を切り、自己肯定感と自己有用感を高めることができた。 【課題】生徒が主体となって活動に取り組むことがまだまだ少ないので、その機会を増やすとともに活躍できる場を増やしていく。	○			参観日、拝見しましたが生徒は予断でしっかりと教室に入り、うろちょろしている生徒はどの学年にも見られました。休憩時間も拝見しましたが、孤立している子はいなかったと思います。	①生徒会の取組を委員のみが行うのではなく、クラス全体で取組ができるようにする。  ②生徒会活動を精査し、学校行事や各学年の取組と関連づけて行うことで系統的な取組となるようにしていく。  ③年間を通して、生徒が主体となる活動を計画し、そのサポートを行う。
			学校評価生徒アンケート「私は、学校や地域で自分から進んであいさつを行うことができている」に肯定的に回答する生徒の割合	②85%	90%	89%	104%	A						
			アセスアンケートの向社会的スキルの項目に肯定的に回答する生徒の割合	③85%	53%	85%	100%	A						
健やかな体の育成	自己を認識し、自分の将来の夢や目標を持つことができる生徒を育成する。  基本的な生活習慣を確立する。  ○三点固定（朝起きる時間、家庭学習時間、寝る時間）の確立	①生徒に自分の日課表を作成させ、生活習慣の定着を図る。  ②定期的に自分の生活習慣を振り返らせ、規則正しい生活を送ることへの意識を高める。	学校評価生徒アンケート「起きる時刻と寝る時刻を決めて、毎日それを守って規則正しい生活を送っている」に肯定的に回答する生徒の割合	①75%	72%	66%	88%	B	①【成果】生活習慣が定着している生徒はその後も継続することができた。 【課題】意識して取り組んでいる生徒が少ない。  ②【成果】チェックシートを実施している期間には意識して取り組める生徒が増えた。 【課題】保護者を巻き込むなど取り組みを工夫すべきであった。	○			こちらの課題は、声かけ・スマホ没収等、保護者の指導方法が重要だと思います。	①生徒が忘れない頻度でのチェックや振り返りなどの意識付けを行う。  ②家庭との連携を継続的に行っていく。保護者に生徒の取り組みを確認してもらえるような工夫を設ける。
			学校評価生徒アンケート「学年で定められた家庭学習時間を達成することができている」に肯定的に回答する生徒の割合	②75%	61%	58%	77%	C						

【自己評価 評価】

A: 100 ≤ (目標達成)  
C: 60 ≤ (もう少し) < 80

B: 80 ≤ (ほぼ達成) < 100  
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ:自己評価は適正である。ロ:自己評価は適正でない。 ハ:わからない。